

JR芸備線利用促進に係る 広島県の取組

令和3年10月8日
広島県地域政策局



- 1 取組の方向性
- 2 通学利用の拡大（通学モビリティマネジメント）
- 3 外出支援と関係人口誘引
- 4 観光利用の誘引（補助）
- 5 その他の取組



4つの仮説に基づく利用促進の方向性

仮説①

ダイヤ・本数の改善や、二次交通の利便性向上によって、自家用車等からの転換を図ることで利用が促進されるのではないか

取組の方向性①

通勤利用の拡大

仮説②

鉄道の優位性のある地域（例：備後庄原 - 備後西城間）では、これを活かし主に通学需要のきめ細かい取込みを図ることで利用が促進されるのではないか

取組の方向性②

通学利用の拡大

仮説③

鉄道施設に魅力訴求の余地があり、地域の住民の交流意欲も高い地域では、地域行事等と連携した地域の交通手段の整備により利用が促進されるのではないか

取組の方向性③

地域住民の外出増
関係人口の誘引

仮説④

沿線3市には、年間776万人の観光客が訪れており、観光利用の誘引や移動手段の鉄道への転換を図ることで利用が促進されるのではないか

取組の方向性④

観光利用の誘引
移動手段の鉄道への転換

2 通学利用の拡大(通学モビリティマネジメント)

実施目的等

目的	通学手段の一部を鉄道へ転換 【取組の方向性②】
対象者	庄原市内の高校に通う生徒 (庄原格致高校, 庄原実業高校, 西城紫水高校, 東城高校)
実施時期	10月から募集開始, 11月以降にモニター実験実施予定
実施内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none">○ 1か月間の芸備線モニター実験を実施<ul style="list-style-type: none">・各学校において, 主に家族等の送迎で通学している生徒に対して参加を募る・芸備線利用プラン及び芸備線利用の動機付けを図るチラシを作成し, モニター参加及び芸備線利用を促進・期間内の定期券をJRより購入し, モニターに配布・モニターは利用状況を記録○ モニターによる芸備線ワークショップ: モニター期間終了後, 12月以降に開催<ul style="list-style-type: none">・芸備線の利用意向と障害要因をコミュニケーションにより把握するため, ワークショップを開催 ~定着化促進

2 通学利用の拡大(通学モビリティマネジメント)

取組のイメージ

生徒・保護者に対するMM

公共交通を利用するメリット・1人1人に合った鉄道利用プランを記載して提案することにより、鉄道利用への転換を図る。

地域内の学校等へ鉄道でアクセスしやすいことを伝えるマップを作成・配布（高校入学予定者説明会等での配布も検討）

▼啓発資料(表画)

高校受験を控えた3年生と保護者の皆様へ

公共交通は面倒・・・?? 実は、通学にいいコトがいっぱい!

- 公共交通なら、より安全・安心です。**

山口県では1年間で約200名(H26)の高校生が事故に遭っています。3年間通学、約40人に1人が事故に遭うことになります。自転車も注意すれば事故を減らせますが、公共交通ならもっと安心です!

※1年間の事故遭過人数200人+県内の高校生約24,000人×3年=1/40人
- 日々の読書や勉強に!**

公共交通なら毎日の通学時間を、読書や趣味などに使えます。試験勉強も、少し有利になるかもしれません・・・。

▼3年間の通学時間と読書
30分/日通学 × 250日/年 × 3年 → 750時間/3年
1冊10時間かかる本なら、公共交通なら読めたはずの**75冊**が読めなくなってしまうかも・・・
- 規則正しい生活も、身につきます。**

筑波大学が実施した大学生への調査結果では、ジャーヤスワットを履いて授業出席が悪い学生は、公共交通を利用しない傾向があったそうです。公共交通を利用して**社会や人にあわせる**生活を送れば、社会で求められる規則正しいさも、自然と身につくかもしれません。
- 社会が一步、広がる機会に・・・**

東京工科大学が実施した研究によると、子どもの頃に車ばかり使う家庭で育った人は**想像力が低い**そうです。社会が広がるこの時期にたくさんの乗客に囲まれて通学することは、**社会性を育む貴重な機会**になるのではないのでしょうか・・・。
- 公共交通、まちの活性化のために。**

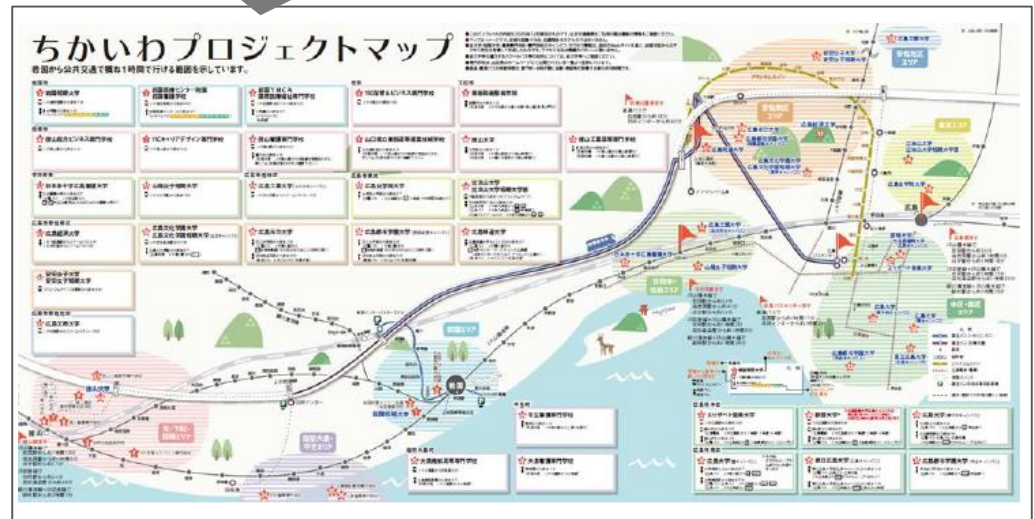
宇部市では、公共交通利用者の減少が続いており、利用を増やしていく必要があります。公共交通が元気になると、**まちも人も元気**になります。地域の公共交通について、ぜひ、一度考えてみてください。

▼宇部市のバス利用者数推移(H22を100とし左端の値を基準)

年度	利用率 (%)
平成22	100
平成23	96
平成24	94
平成25	90
平成26	87

資料：宇部市交通局

※リーフレットイメージ



3 外出支援と関係人口誘引



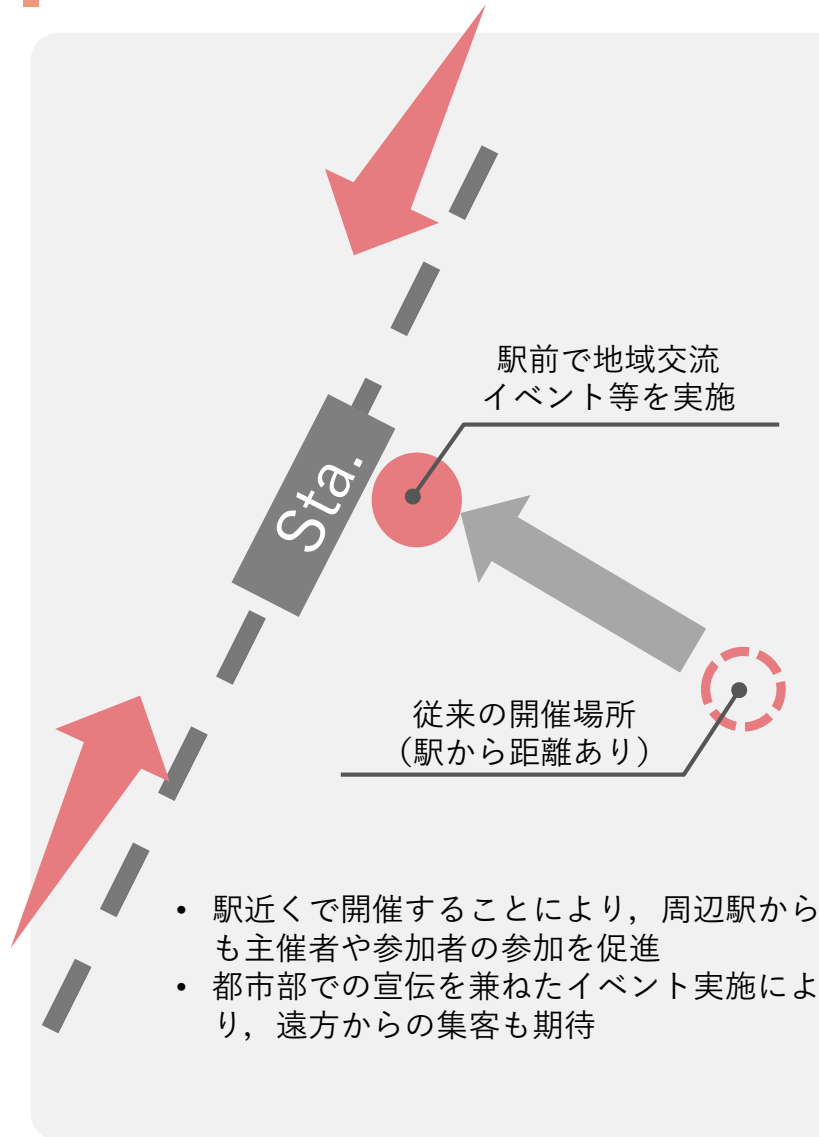
実施目的等

目的	<ul style="list-style-type: none">・ 地域住民の外出機会の増加 【取組の方向性③】・ イベント参加者の鉄道利用
対象者	<ul style="list-style-type: none">・ 主に庄原地域での地域交流イベントの主催者・ 地域外からの参加者
実施時期	主に11月下旬以降に開催予定 (紅葉シーズン終了後のオフシーズンの利用喚起を狙い)
実施内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none">○ 駅周辺での地域交流イベント開催<ul style="list-style-type: none">・ 地域住民が従来は駅から距離がある地区で開催されていたイベントを、駅周辺で実施できるよう支援・ イベントの宣伝を兼ねて、生産者による物販等を都市部でも実施 (11月に広島市で開催)○ 鉄道ファンによる芸備線盛り上げイベント<ul style="list-style-type: none">・ 芸備線に関係する部品等の展示や、ガイドから部品にまつわるエピソード等の紹介を実施

3 外出支援と関係人口誘引



実施イメージ（地域交流イベント）



4 観光利用の誘引（補助）



実施目的等

目的	観光目的の鉄道利用増 【取組の方向性④】
対象者	地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助 ※上限10,000千円を予定
実施内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none">○ 芸備線おもてなしイベント：全線復旧から2周年の10/23(土)に実施<ul style="list-style-type: none">・ 主催：芸備線対策協議会・ 各駅の駅前広場を活用し、地域の魅力を発信するイベントの実施、横断幕やのぼり旗を設置して駅の賑わいを創出。○ 芸備線を活用した庄原市内を巡る観光ツアー：10～12月に実施<ul style="list-style-type: none">・ 主催：庄原DMO・ 今秋臨時運行される庄原ライナーの着地ツアーとして、備後庄原駅から市内を巡るバスツアーを実施。○ JR線沿線情報誌及び駅カード等の製作:10/23～年度末まで配布<ul style="list-style-type: none">・ 芸備線各駅の駅カードを作成し、鉄道ファンの来場を促進。 ※無くなり次第終了 <p style="text-align: right;">（一部の取組のみ記載）</p>

鉄道ネットワークを活かした中山間地域の魅力向上事業

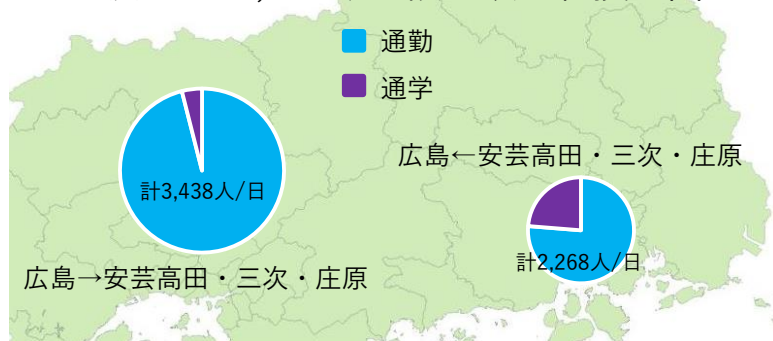
予算額：8,000千円(9月補正予算上程中)

内容：鉄道ネットワークの維持・確保に向けて、通勤や観光客等の移動実態の把握・分析等

取組の方向性：「①の通勤利用拡大」「④の移動手段の鉄道への転換」を図るため、マイカー通勤や観光客の移動手段を鉄道転換することを目的とした調査を実施予定

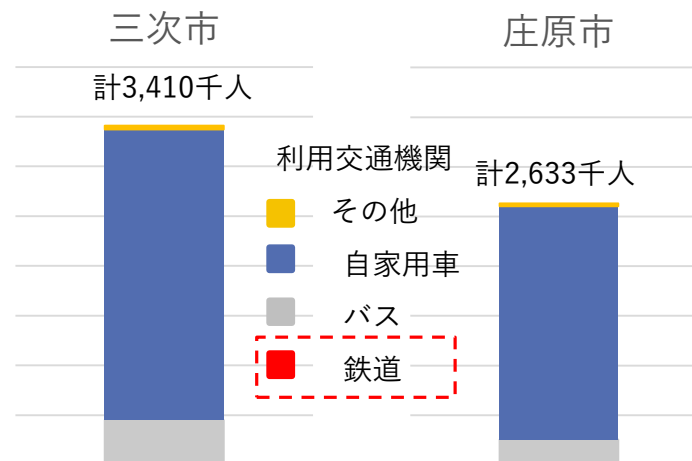
通勤利用

安芸高田市・三次市・庄原市から広島市への通勤だけでなく、逆方向にも比較的大きな人流があり、通勤手段の鉄道転換を図る



出典：2015年国勢調査に基づき作成

観光客の移動手段



現状1%未満の鉄道利用の拡大を図る

出典：平成29年広島県観光客数の動向に基づき作成



住民有志での取組

- 芸備線・福塩線の沿線住民有志がカープラッピング車両の実現に向けてたる募金を実施
- 庄原市西城町の住民有志で、芸備線と木次線をモチーフにしたポロシャツの受注販売を実施 等

乗車啓発の取組

- 児童・生徒のJR乗車体験事業（庄原市・予定）
- 高校生×JRワークショップ（三次市・7月から実施中）

引き続き芸備線の利用促進に取り組む